

ウィニングラン[®] 1キログラム粒剤

■種類名：イプフェンカルバゾン・プロモブチド・ベンスルフロンメチル粒剤
 ■有効成分：イプフェンカルバゾン ----- 2.5%
 プロモブチド ----- 9.0%
 ベンスルフロンメチル ----- 0.75%
 ■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン [第1種] ----- 2.5%

■登録番号：第24355号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
 ■登録初年：2020.02.26
 ■性状：類白色～淡褐色細粒
 ■有効年限：3年(担い手直送規格は2年)
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋
 40kg(担い手直送規格)

【特長】

- 水稲に対する安全性が高い、田植同時処理可能な一発処理除草剤。
- 有効成分イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑える。
- SU抵抗性雑草（ホタルイ、コナギ、アゼナ類）に有効。

【適用内容】（2023年10月末日現在）

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 |
|------|--|----------------------------------|--------------|---------|------------------------------|
| 移植水稲 | 一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ、ウリカワ クログワイ、オモダカ シズイ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離 | 移植時 | 1 kg /10a | 1回 | 田植同時 散布機で 施用 |
| | | 移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで | | | 湛水散布 又は 無人航空機による 散布 |
| 直播水稲 | 一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ | 稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで | | | |

| イプフェンカルバゾンを含む 農薬の総使用回数 | プロモブチドを含む 農薬の総使用回数 | ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数 |
|---------------------------|-----------------------|---------------------------|
| 2回以内 | 2回以内 | 2回以内 |

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、移植水稲に使用する場合は、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ウリカワ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。オモダカ、クログワイ、シズイは発生の期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 本剤を直播水稲に使用する場合は、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは2葉期まで、ヘラオモダカは発生前まで、ミズガヤツリは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～始期が本剤の散布適期である。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当っては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田

- ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- ◆ 散布後に高温傾向が続くと予想される時
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って使用すること。
 - ◆ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ(スピナ)の回転数を低速に調整すること。
 - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5 m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 本剤を直播水稲で使用する場合、稲の根が露出する条件では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 除草効果が低下することがあるので、梅雨期等、散布後に多量の雨が予想される場合は使用をさけること。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。